2026年11月10日

各　位

会 社 名　ＡＬＳＯＫ株式会社
代表者名　代表取締役グループＣＥＯ　村井　豪
（コード番号 2331　東証プライム）
問合せ先　ＩＲ室長　古賀　基継
（TEL. 03－3423－2331）

中期経営計画「ALSOK STAGE 2028」の財務目標見直しに関するお知らせ

当社は、2026年11月10日開催の取締役会において、2026年5月13日に公表しました中期経営計画「ALSOK STAGE 2028」の財務目標について、直近の業績動向や日本ドライケミカル株式会社の連結化を踏まえ、下記のとおり見直すことを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1　見直しの内容

	目標値（2029年3月期）	
	前回発表	見直し後
連結売上高	6,800億円～7,500億円	7,200億円～7,600億円
連結営業利益	650億円～720億円	690億円～730億円
連結経常利益	680億円～750億円	720億円～760億円
連結経常利益率	10%程度	10%程度
ROE	10%程度	10%程度
配当政策	配当性向40%から50%を目安に 安定配当を目指す	配当性向40%から50%を目安に 安定配当を目指す

2　見直しの理由

当社は、中期経営計画「ALSOK STAGE 2028」の策定以降、セキュリティ事業やＦＭ事業等が好調に推移しており、特に2027年3月期中間期の業績は計画策定時の想定を上回っております。また、2027年1月1日付で予定している日本ドライケミカル株式会社の連結子会社化により、収益基盤の拡大が見込まれております。

これらの状況を踏まえ、中期経営計画における財務目標について見直しを行うことといたしました。

3　添付資料

中期経営計画「ALSOK STAGE 2028」

以　上

ALSOK STAGE 2028

中期経営計画（2026-2028年度）

2026年5月13日

ALSOK株式会社

（証券コード：2331）

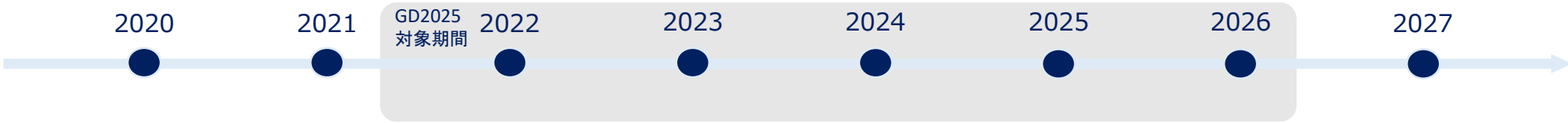
1　Grand Design 2025の振り返り

2　ALSOK STAGE 2028の基本方針

3　主要指標

1　Grand Design 2025の振り返り

経営環境の変化と経営実績



経営環境

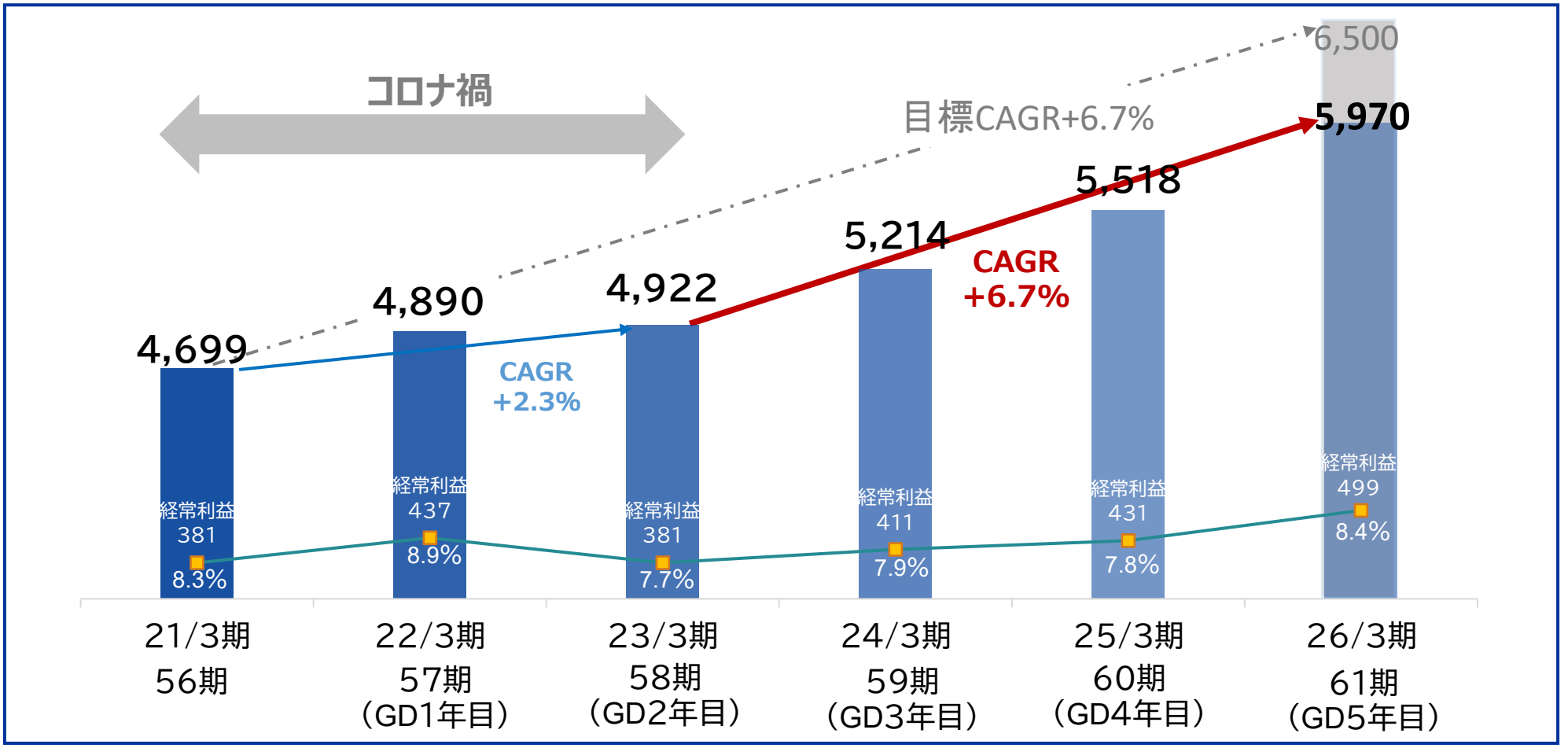
東京2020大会	能登半島地震等激甚災害	EXPO2025大阪・関西万博	AI、DX等急速な技術発展
コロナ禍	3G停波	強盗事件等で体感治安悪化	物価上昇

経営実績

	2021/3実績	2026/3実績	増減	GD2025目標	目標比
連結売上高	4,699億円	5,970億円	+1,271億円	6,500億円程度	▲530億円
連結経常利益	392億円	499億円	+107億円	650億円程度	▲151億円
連結経常利益率	8.3%	8.4%	+0.1pt	10.0%以上	▲1.6pt
ROE	9.6%	9.2%	▲0.4pt	10.0%以上	▲0.8pt
配当性向	28.0%	42.6%	+14.6pt	30%を目安に 安定配当を維持 ⇓ 配当性向見直し 40～50%を目安に 安定配当を目指す （2024/5）	+12.6pt
1株当たり配当金	14.4円	29.2円	+14.8円		
自己株式取得		GD2025期間中 総額約200億円分			

業績推移

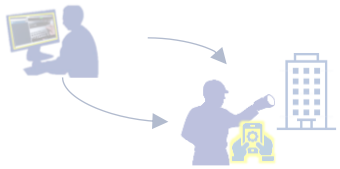
✓コロナ禍においては、成長施策（含M&A）が予定どおり進まず、５年成長は当初想定を下回る。
✓2024年3月期以降、警備等の需要回復を背景に、売上成長率はGD2025で見込んでいた6.7%に近い水準で推移する。
✓3G停波対応の遅れ（コロナ禍影響）や物価高によるコスト増により、2026年3月期の経常利益率はGD2025目標を下回る。当初想定到達は約２年遅れる見込みとなる。



Grand Design2025の基本方針に基づく成果

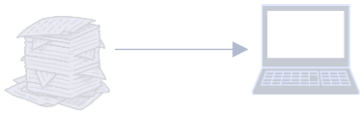
社会の多様な安全・安心ニーズへの対応能力の強化

✓機械警備インフラを活用した
　付加価値型の新サービスを投入
✓介護事業の規模拡大/収益改善



デジタル化とデータ活用

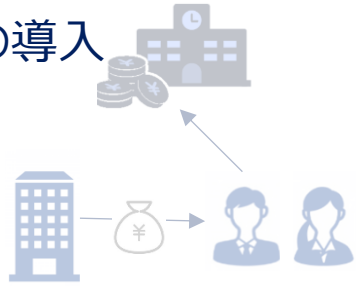
✓顧客ポータルサイトの開設
✓サービスのDX化
✓メンテナンスのリモート化
✓「DX認定事業者」認定を取得



社員が活躍できる環境の構築

✓資格取得の推進
✓12年連続のベースアップ
✓単体社員にRS支給
✓奨学金代理返還制度の導入





サステナビリティへの取組強化

✓サステナビリティ基本方針を策定、
　TCFD開示
✓ALSOKグループ人権方針の策定
✓警報機器リユースの促進
✓環境配慮車両への買い替え推進

Grand Design2025の振り返りを踏まえ、対処すべき課題

課題1

成長性の高い市場の開拓

✓海外、介護、個人市場の更なる開拓

課題2

既存市場における顧客基盤を起点とした成長戦略

✓国内セキュリティ事業等の成熟を踏まえた新たな成長戦略

課題3

DX・AI活用のさらなる推進

✓業務の効率化や省人化を推進、データ活用についても引き続き全社的に展開

課題4

人的資本投資

✓成長戦略を実行するために必要な人材確保と人的資本投資

課題5

サステナビリティへの取り組み

✓ GD2025からの施策の拡充

2　ALSOK STAGE 2028の基本方針

事業ドメインにおける注力領域

社会環境

- ✓ 強盗等による体感治安悪化
- ✓ 自然災害リスクの増大
- ✓ 建物、設備の老朽化
- ✓ 社会インフラの老朽化
- ✓ 高齢化率の上昇
- ✓ 海外の市場拡大
- ✓ サイバー犯罪の増加

ALSOKへの期待

- ✓ 多様なリスクに多様なサービスで応え、安全・安心を提供する企業グループ。
- ✓ 「Big ALSOK」などにより「リスクベースアプローチ」を実現 「 ALWAYS OK ALSOK 」。

強み

- 24時間365日 全国ネットワーク
- 警備等インフラ
- 安全・安心 ALSOKブランド
- 強固な顧客基盤
- 規律と迅速性 高い運用品質

×

- モダナイゼーション
- リエンジニアリング
- DX・AI化

注力する事業領域

セキュリティに留まらない多様な領域で事業を推進し、お客様と社会の安全・安心に貢献する。

- 防犯
- 災害対策
- FM
- 防災
- 高齢者向けサービス
- 海外
- サイバーセキュリティ

ALSOK STAGE2028「５つの柱」

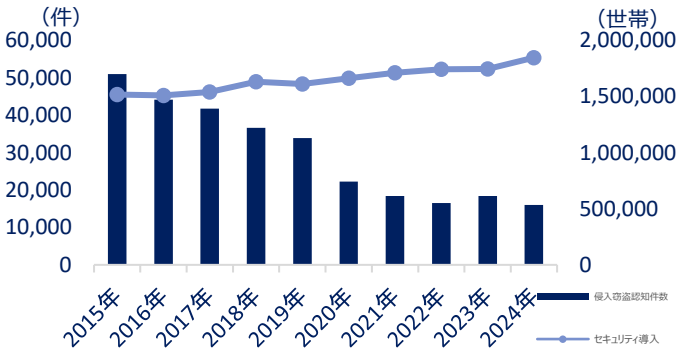
GD2025の課題

成長性の高い市場の開拓	１.成長市場開拓による事業拡大
既存市場における顧客基盤を起点とした成長戦略	２.多様なリスクに対応するサービス領域拡充
DX・AI活用のさらなる推進	３.DX・AIを活用したBPRの推進
人的資本投資	４. 人的資本強化策の推進
サステナビリティへの取り組み	５.サステナビリティへの取り組み強化

1.成長市場開拓による事業拡大－成長市場分析－

個人

侵入窃盗認知件数と機械警備対象施設の推移

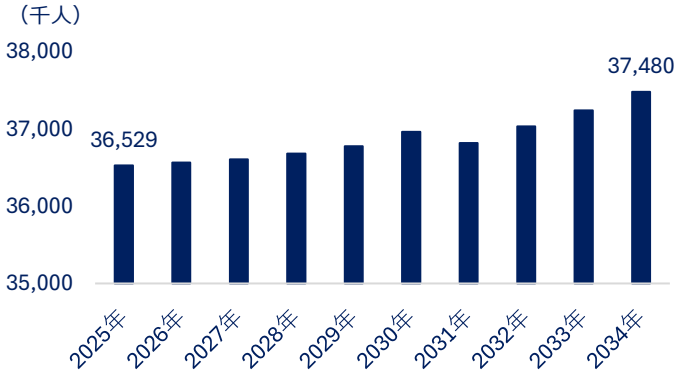


出典：警察庁「令和6年の刑法犯に関する統計資料」
警察庁「令和6年警備業の概況」
総務省「令和５年住宅・土地統計調査」

- ✓個人市場における住宅向け機械警備は依然として未導入世帯が多く（導入率約3.4%）、潜在需要は大きい
- ✓広域強盗事件発生等により体感治安は悪化、防犯・安全に対する意識は強い

介護

国内高齢者総人口

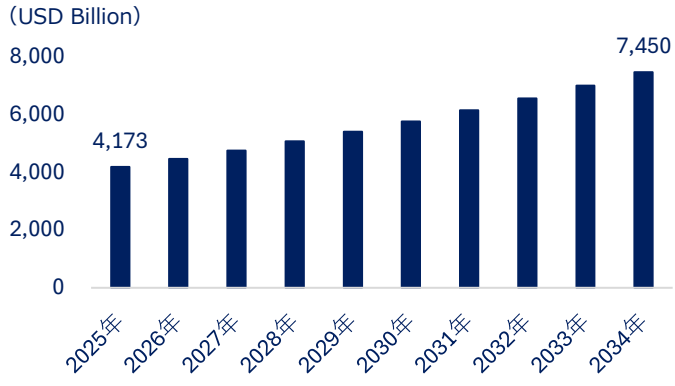


出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（全国）高齢者（65歳以上）総人口」※出生中位（死亡中位）推計

- ✓高齢化の進展は構造的に継続
- ✓見守りや生活支援、安全・安心分野への需要拡大

海外

ASEAN名目GDP



出典：IMF「World economic outlook」およびADBの国別実質成長率、インフレ率見通しより算出

- ✓ 経済規模が拡大する地域への進出
- ✓ 安全・安心分野への需要増加

1.成長市場開拓による事業拡大－成長戦略－

介護事業

▶信頼の運営力と高いサービス品質を活かし、介護・生活支援需要を取り込む

▶DX活用と人材施策により、効率的かつ持続可能な事業運営体制を構築

HOME ALSOK事業

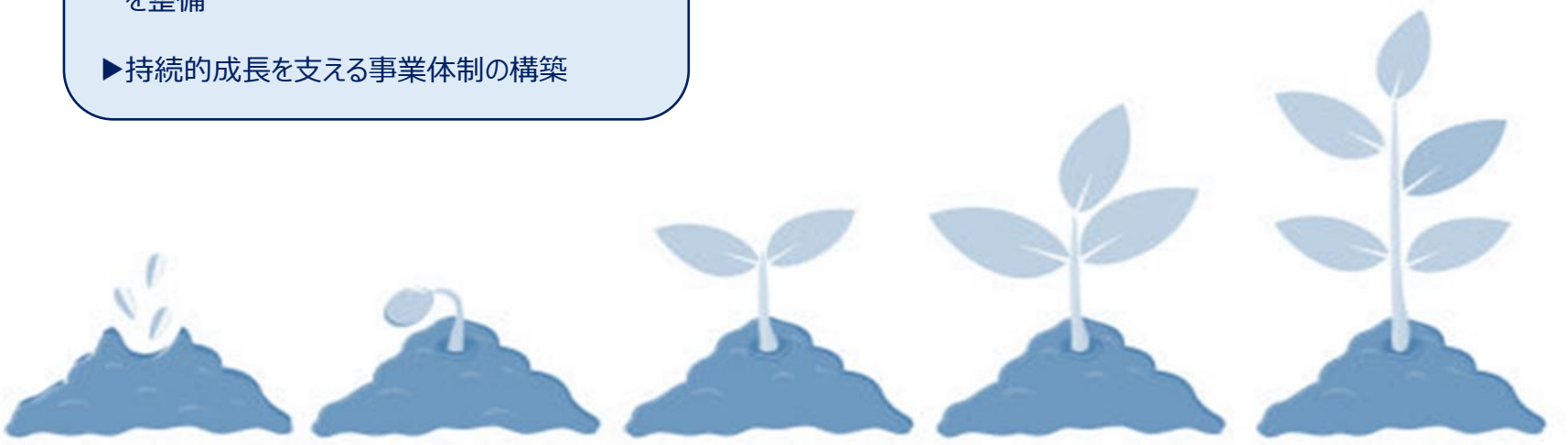
▶住宅内外の安全・安心ニーズへの対応

▶高齢者などに対するみまもりサービスの拡充

海外事業

▶安全・安心ニーズに対応するための事業基盤を整備

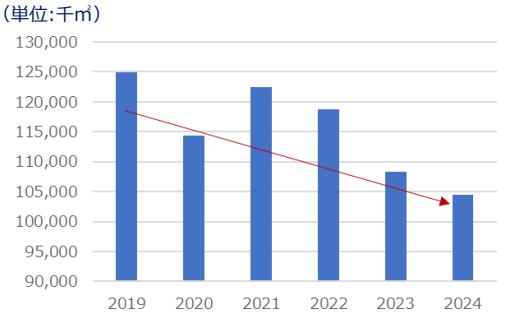
▶持続的成長を支える事業体制の構築



2.多様なリスクに対応するサービス領域拡充 – 既存市場分析 –

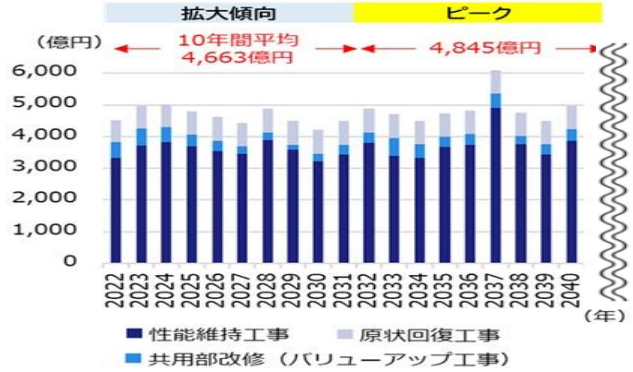
機械・FM・常駐

建築着工統計調査　床面積



出典：国土交通省総合政策局
「建築着工統計調査報告」令和2～令和６年より算出

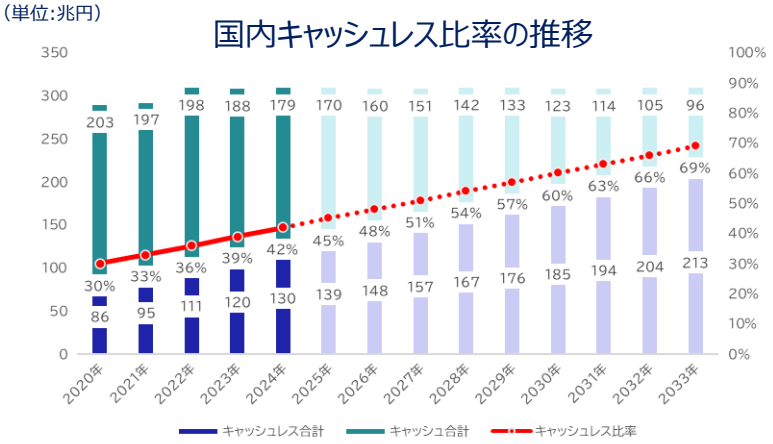
東京23区賃貸オフィスビル市場における修繕費の未来予測



出典：ザイマックス不動産総合研究所
「東京賃貸オフィスビル市場における修繕費の未来予測（2022年）」

警備輸送

国内キャッシュレス比率の推移



出典：経済産業省「我が国のキャッシュレス決済額及び比率の推移」

✓新規建築需要は中長期的に減少

✓既存建物ストックを前提とした維持・高度化需要の増大
（非住宅建築物は1980～90年代に集中的に建設され、設備更新・ 改修需要は2030～2040年頃にピーク）

✓都市部における複合施設等の大型化

✓決済手段の多様化・高度化

✓社会インフラとして、現金需要は一定水準を維持

2.多様なリスクに対応するサービス領域拡充－成長戦略－

機械警備・FM事業

▶業務の効率化・高度化によって創出する余力を新たな市場・サービスへ展開

▶AI活用による業務の可視化・標準化を通じた品質・生産性の向上

▶NDCを核に先端防災ソリューションを提供するプラットフォームを構築

常駐警備事業

▶人員配置・勤務形態の見直しによる省人運営モデルへの転換

▶高付加価値業務へのシフトと協業を通じた収益性・品質向上およびサービス領域の拡大

警備輸送事業

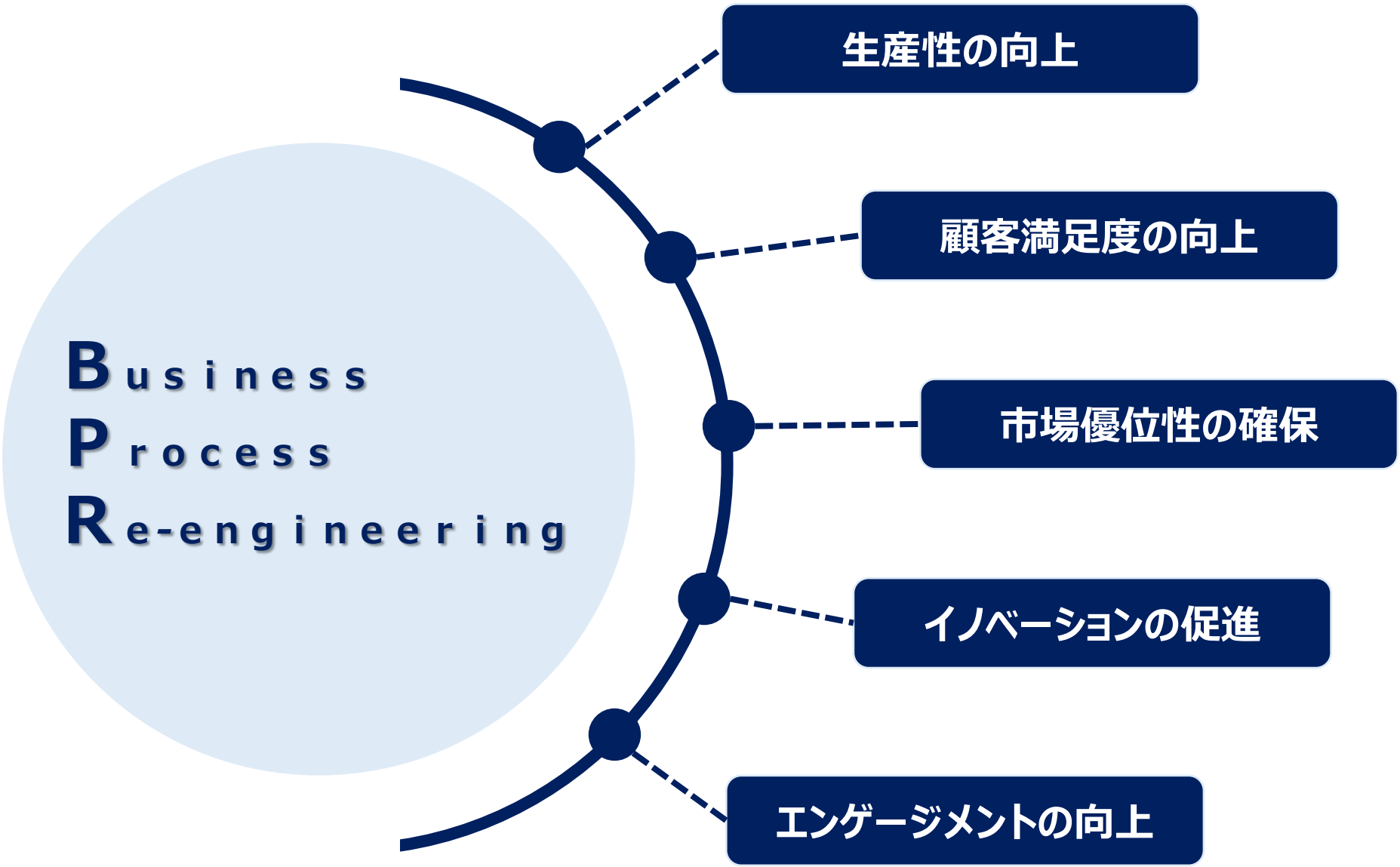
▶現金流通量の変化を踏まえた、運用・サービス体制の見直し

▶新たな顧客ニーズに対応するサービスの再設計（新サービスの開発）



3.DX･AIを活用したBPRの推進

■業務フローの改善と、データ･AI活用を軸としたDX化を推進し、環境変化に柔軟に対応する業務基盤を構築

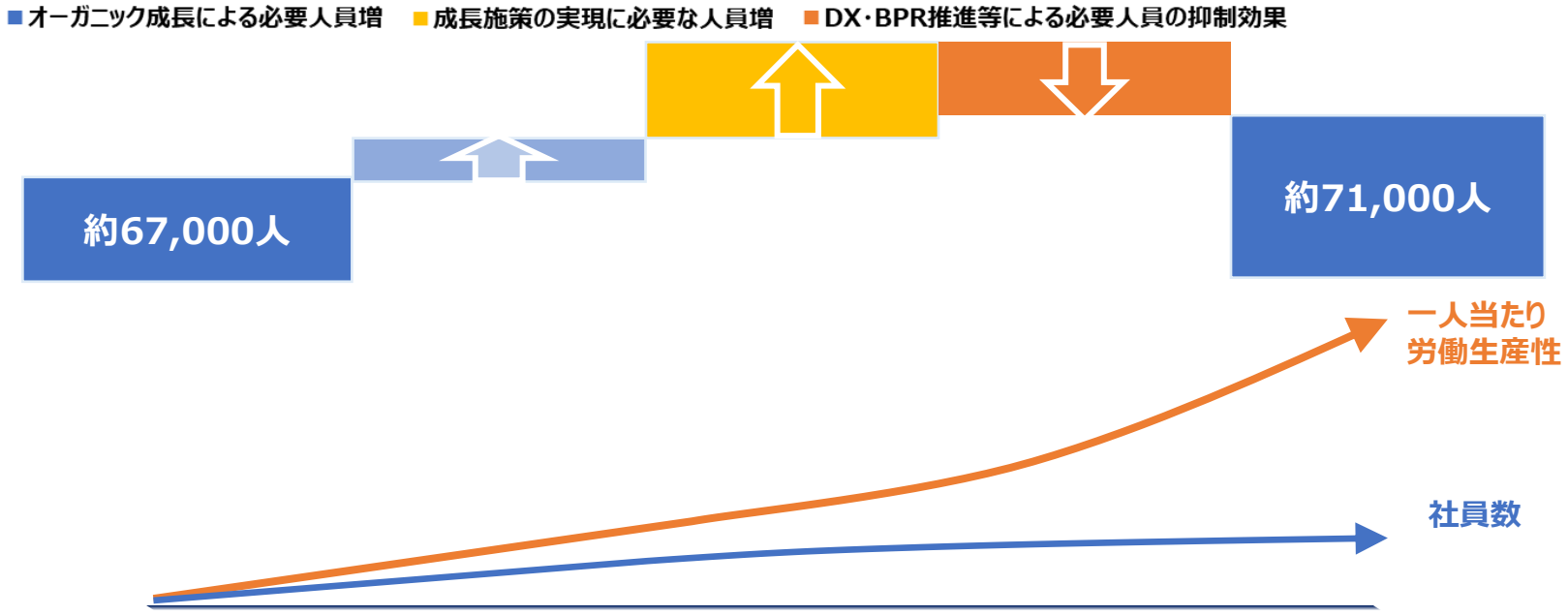


4．人的資本強化策の推進

■ALSOKグループ全体を成長の舞台とした人的資本強化策の推進

【基幹人財】⇒労働生産性向上

人をサービスの中心に据えつつ、DXやBPR推進により全ての事業領域で人員増加を抑制し一人当たりの労働生産性を向上



【専門人財】⇒専門人財の充実

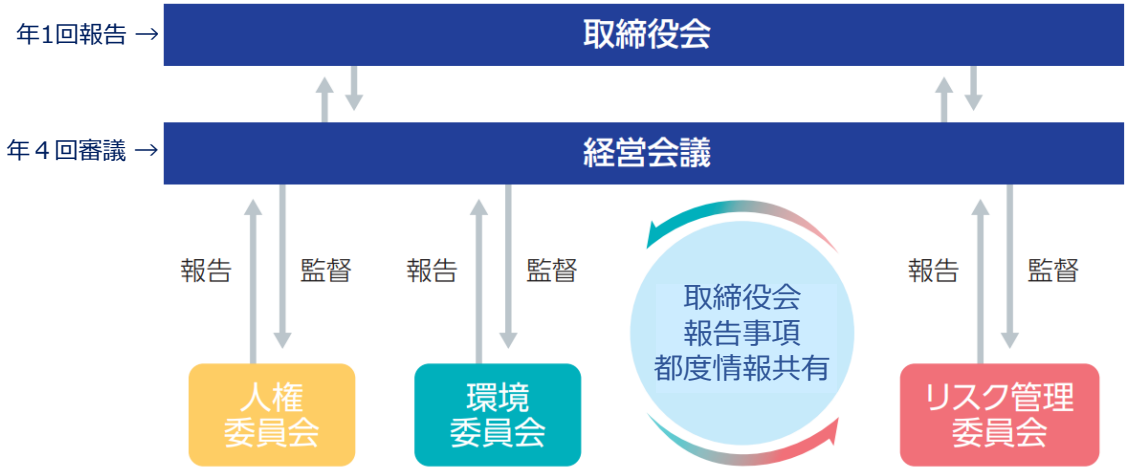
グループ、事業、個社それぞれのステージに応じた成長ドライバーとしての人的投資を進める

DX人財強化	企画人財	経理･法務人財
BPR推進を加速	成長施策を推進	持続的な企業価値向上

5.サステナビリティへの取り組み強化

■お客様や地域社会をはじめとするステークホルダーからの要請に対して、「ありがとうの心」と「武士の精神」に基づく経営理念を実践することで、グループ全体のサステナビリティ・CSRを実現する。

【サステナビリティの推進体制】



【SDGsへの取り組み】



【環境問題への取り組み】

カーボンニュートラルへ向けた取り組み	CO2削減に向けた取組強化 ・グリーン調達 ・次世代車両への入れ替え ・グリーン電力	環境マネジメント	環境対応に対してステークホルダーからの信頼獲得 ・環境マネジメントシステムISO14001のグループ全社への導入 ・国際的なイニシアチブ（TCFD等）への賛同 ・ALSOKグループの環境ガバナンスへの取り組み強化 ・取組状況の積極的な情報発信
循環経済に向けた取り組み	循環性の高いビジネスモデルへの転換 ・3R等の推進 ・商品・サービスにかかわる環境配慮設計の強化 ※長期使用可能な製品・サービス設計 （耐久性、アップグレード性・リペア性等） ※メンテナンスを含めた製品の有効活用	社会の課題解決への貢献	新商品・サービスの提供 ・エネルギーマネジメントサービスの提供 ・環境モニタリング ・防災・減災対策 ・水素ステーション・EV充電施設等の運営サポート

5.サステナビリティへの取り組み強化 –マテリアリティ-

マテリアリティ	KGI	KPI内容	KPI等：主な取り組み	目標値	目標年
多様なリスク対応による安全・安心の提供	高品質で信頼される総合リスク対応サービス	業務効率	リーンオペレーション※1による出動抑制	（非開示）	2028年度
			警報装置の点検効率改善	15％削減	2028年度
		業務拡大	レスキューサービスの付帯率向上	5%	2028年度
			ドローン業務拡大	1,200件	2028年度
		品質管理（改善幅）	品質改善指数改善	前年度比+5pt	毎年
			侵入等防止率※2	（非開示）	毎年
			お客様の声（感謝）数	前年度比増加	毎年
		HS契約維持率・増加率	HS（ホームセキュリティ）契約維持率	95％以上	毎年
			HS（ホームセキュリティ）契約増加率	12.40%	毎年
		介護入居率	特定・サ高住・住宅型施設入居率	93.50%	毎年
			GH（グループホーム）入居率	97.00%	毎年
経営基盤	DXによる事業変革	営業利益／人・DX/AIの活用	BPRによる生産性向上	1.3万時間＋α	2026年度
			警備報告書作成の自動作成	（非開示）	2028年度
	グループの一体的運営	監査・モニタリング	内部監査の実施	実施率100%	毎年
			内部監査指摘事項の是正	不備是正率100%	毎年
		リスクマネジメント	マルウェア侵害件数	（非開示）	毎年
人的資本	安全で魅力ある雇用環境	従業員の健康と安全確保	40歳以上の社員に占める医療機関未受診者の割合	5％以下	毎年
	人材の育成と活用	育成（研修・資格・対話会）	管理職クラスにおける業務関連資格保有	保有率100％	毎年
			幹部社員による個人面談	実施率100％	毎年
		ハラスメント・人権等教育	ハラスメント・人権等教育	実施率100％	毎年
		多様性	管理職に占める女性比率	30%	2028年度
			管理職に占める中途採用比率	50％程度を維持	2028年度
サステナビリティ	サステナビリティ経営	サステナビリティ　Scope1,2	Scope1+2削減　CO_2削減	2013年度比 38％削減	2028年度
		リペアセンターの活用	リペア品の出荷率	11%	2028年度
		地域コミュニティ	自治体等との協定締結推進	前年度比増加	毎年
			あんしん教室実施回数	2,800回	毎年
			ありがとう運動支援	活動継続	毎年

※1 業務の効率化を通じて、生産性と顧客価値の最大化を図るオペレーション手法
※2 機械警備サービスのご契約先における侵入等の防止率（非発生率）を示す当社の運用指標

3　主要指標

財務目標

	2026/3　実績	2029/3　改定目標
連結売上高	5,970億円	7,200億円～7,600億円
連結営業利益	469億円	690億円～730億円
連結経常利益	499億円	720億円～760億円
連結経常利益率	8.4%	10%程度
ROE	9.2%	10%程度
配当政策	配当性向40%から50%を 目安に安定配当を目指す	配当性向40%から50%を 目安に安定配当を目指す

※2026年11月10日　財務目標を見直し

キャッシュアロケーション

ALSOK STAGE2028

2026 2027 2028 2029 2030

営業CF 〔1,900億円～2,000億円〕	基盤投資 維持更新	300億円	●事業基盤を支える自社施設・物流機能の維持・強化 ・安定した運営体制維持のため、自社施設や機器等の適切な保守、更新を行う。 ・拠点機能の充実により、持続可能な運用体制を強化する。
	成長投資 M&A	900億円～ 1,000億円 +α	●顧客接点・社会インフラを支えるシステム等への戦略投資 ・顧客ポータルをはじめとする各種システムの高度化を推進する。 ・業務システム、監視機器等を進化させ、サービス品質と生産性の向上を図る。 ●グループ価値最大化に向けた成長投資の推進 ・M&Aや、ALSOKグループの連携を強化し、事業ポートフォリオの拡充を図る。
	配当 自己株式取得	550億円+α	●安定的かつ持続的な株主還元の実施 ・継続的な業績成長を前提に、安定した配当を基本方針として実施する。 ●機動的な自己株式取得で追加還元 ・財務状況および市場環境を踏まえ、機動的な自己株式の取得等、配当以外の株主還元を検討、実施する。
	現金等 一定額の確保	―	●安定した運営の継続 ・安定経営のための資金を確保する。 ・余裕資金は現状割合程度を想定する。
人的資本投資			●価値創造基盤の強化 ・多様な人材が安心して能力を発揮できる処遇充実等の環境整備を図り、事業成長を支える人的基盤の強化を進める。



本資料に記載されている財務目標等の将来に関する記述は、現時点での情報に基づいて当社が作成したものであり、環境変化等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。